

日本抗加齢医学会雑誌

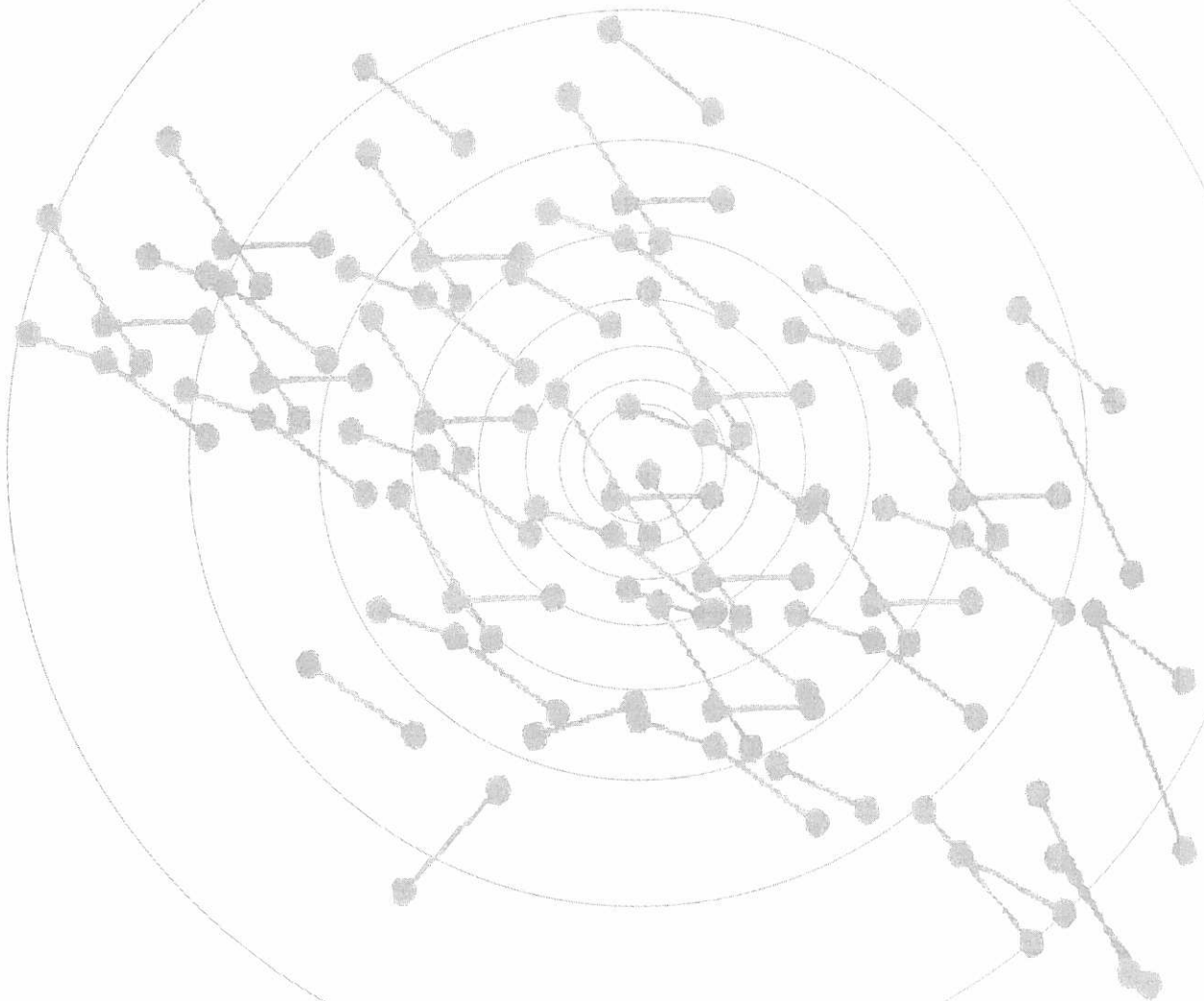
2013年4月1日発行 (年6回2・4・6・8・10・12月各1日発行) 第9巻 第2号 [通巻43号] ISSN 1880-1579

2013 Vol.9 No.2

別刷

アンチ・エイジング医学

ANTI-AGING MEDICINE



 メディカルレビュー社

中島こうや クリニック



中島 孝哉
Koya Nakashima

E-mail : nakashimako@k9.dion.ne.jp

総合診療内科としてのスタート

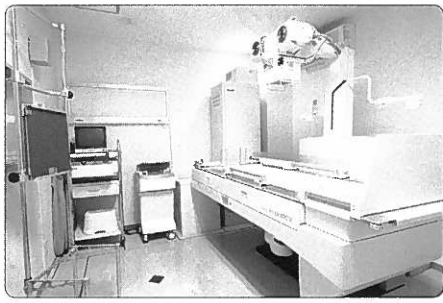
中島こうやクリニックは、福岡市の南に隣接する那珂川町にあります。那珂川町は背振山地の北側に位置し、那珂川が流れ、山の裾野に田園が広がる自然豊かな町です。人口は約5万人、主な産業は農業で、特産品としてはヤーコンが知られています。1975年に山陽新幹線の車両基地ができ、1990年に博多南駅が作られ、博多南駅から博多駅まで在来線として新幹線の乗車が可能になったため、近年は福岡市のベッドタウンとして発展しています。当院はJR新幹線博多南駅前にあり、博多駅までは10分で行くことができます。

中島こうやクリニックは、家族みんなが安心してかかる家庭医、大学病院に負けない総合診療科を目指して、2002年に開院いたしました。大学病院での総合診療科の役割は、外来での初期診療（どの科を受診し

たらよいかわからない患者様の診療）、複数の科にまたがる疾患の診療とされていますが、患者様が最初に受診する一般のクリニックにこそ、総合診療科としての役割が求められると思います。当院には開院以来、表1に示しますように、さまざまな疾患の患者様が来院されています。当院では、X線検査（単純撮影、胃・大腸透視）、超音波検査（腹部、心臓、血管、体表）、内視鏡検査（胃、大腸）、呼吸機能検査などの内科診断に必要な検査を行うことができます（写真）。CT、MRI、血管造影を行わないと診断が困難な例もありますが、大部分の症例は当院で診断がつけられており、精密検査や専門的治療が必要な場合には、紹介先の専門性を考慮した上で、病診連携により速やかに紹介を行っております。開院後10年を経過しましたが、スタッフをはじめ皆様のご尽力により、地域のプライマリー

表1. 当院から基幹病院への紹介患者

消化器	食道癌、食道静脈瘤、胃癌、胃ポリープ、大腸癌、大腸腺腫、大腸ポリーポージス、クローン病、潰瘍性大腸炎、虚血性大腸炎、急性虫垂炎、大腸憩室症、小腸腫瘍（GIST）、イレウス、痔核、単径ヘルニア、肝細胞癌、転移性肝癌、肝硬変、B型慢性肝炎、C型慢性肝炎、B型急性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、膵臓癌、粘液性膵嚢胞腫瘍、慢性膵炎、出血性膵仮性嚢胞、胆嚢癌、胆嚢結石、総胆管結石、急性胆嚢炎、胆嚢腺筋症
呼吸器	肺癌、肺結核、非定型抗酸菌症、肺炎、肺化膿症、膿胸、肺アスペクト症、好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎、自然気胸、縦隔気腫、気管支喘息、肺血栓塞栓症
循環器	狭心症、急性心筋梗塞、急性心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、うっ血性心不全、大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全、僧帽弁閉鎖不全、心房粗動・細動、洞不全症候群、心室性期外収縮、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、下肢急性動脈閉塞症、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫
腎泌尿器	腎盂癌、膀胱癌、前立腺癌、腎結石、尿管結石、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、膜性腎症、IgA腎症、糖尿病性腎症、遊走腎、過活動性膀胱、前立腺肥大症
代謝内分泌	甲状腺癌、甲状腺腫、バセドウ病、慢性甲状腺炎、糖尿病、副甲状腺機能亢進症
血液	慢性骨髄性白血病、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、好中球減少症
膠原病	皮膚筋炎、リウマチ性多発筋痛症、慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群、SLE
神経	脳梗塞、パーキンソン病、アルツハイマー病、高血圧性脳症、脳動脈瘤
感染症	結核性リンパ節炎、水痘後顔面神経麻痺、壊疽性筋膜炎
心療内科	神経性食欲不振症
婦人科	卵巣癌、卵巣嚢腫、子宮筋腫、子宮腺筋症、クラミジア腹膜炎、特発性卵巣破裂
皮膚科	アトピー性皮膚炎、脱毛症、転移性皮膚癌
整形外科	頸部軟部腫瘍、腓腹神経麻痺、腰部脊椎管狭窄症 他



X線室



生理検査室



内視鏡室

ケアを担う総合診療内科として、地域の皆様に必要とされるクリニックに成長することができました。

アンチエイジング医療を行うクリニックへ

抗加齢医学との出会いは、開院から数年経過し、これからどのようにして診療の質を高め、クリニックを発展させていこうかと考えていたとき、たまたま友人の医師から日本抗加齢医学会の話聞いたのがきっかけでした。学会主催のセミナーは非常に興味を引く内容で、特に自分の専門外の内科領域や他科の先生の講演は新鮮で、たちまち抗加齢医学の虜になってしまいました。抗加齢医学は、内科、整形外科、脳神経科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、皮膚科、美容外科、歯科、スポーツ医学、栄養学などのさまざまな領域にまたがっており、まさに予防医学の総合診療部と思われれます。内科を選び、九州大学第一内科、総合診療部へと進んだ理由は、専門の分野（疾患）だけでなく、人間全体を診ることができる generalist になりたいという思いからでしたので、予防医学の総合診療といえる抗加齢医学との出会いは、クリニックの方向性

を決定づけるものでした。2010年よりアンチエイジングドックを開始し、その後、オーソモレキュラー栄養療法、キレーション療法、高濃度ビタミンC点滴療法、ナチュラルホルモン補充療法などの自由診療を取り入れ、2013年に当院は日本抗加齢医学会認定医療施設に認定されました。

当院で行っているアンチエイジング医療を図1に示します。

アンチエイジングドックの目的は、自分のからだの老化度、自分のからだに足りないもの、自分のからだに害を与えているものを調べ、対策を立てることです。そのための方法として、当院では、①老化度・老化危険因子検査（狭義のアンチエイジングドック）、②酸化ストレス検査、③毛髪ミネラル検査、④遅延型フードアレルギー検査を行っています。老化度・老化危険因子は、日本抗加齢医学会の推奨する方法に従い、抗加齢QOL共通問診票による問診、血管年齢、骨年齢、筋年齢、ホルモン年齢、神経年齢の評価を行っています。データの解析には、米井嘉一先生監修のシステム（Aging Check）を用いています。酸化ストレス検

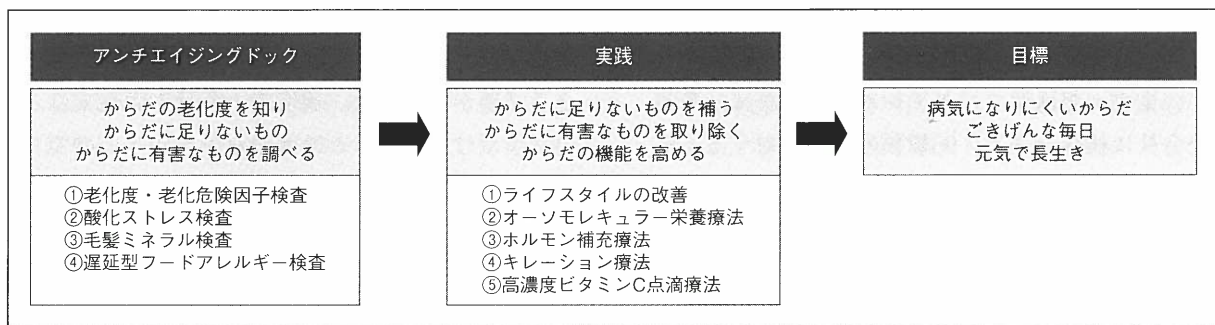


図1. 当院で行っているアンチエイジング医療



スタッフ写真



メディカルディレクター・日本抗加齢医学会指導士による説明

査は、酸化ストレスプロファイルとして一般に検査されている内容で、解析には吉川敏一先生監修のシステムを用いています。結果は、遺伝子損傷度、酸化損傷度、水溶性抗酸化度、脂溶性抗酸化度の項目に分けられ、酸化ストレスのバランスがレーダーチャートで表示されます。代表的な酸化ストレスマーカーである尿中8-OHdGに関しては、自動分析装置（ICR-001）により、院内にて短時間（約5分）で測定することができます。毛髪ミネラル検査は国内の検査会社に委託し、水銀、鉛、ヒ素、カドミウムなどの有害ミネラルと、亜鉛、銅、マグネシウムなどの必須ミネラルの検査を行っています。遅延型フードアレルギー検査は、米国の検査会社に検体を送り、96種類の食物に対するIgG抗体の検査を行っています。

からだの機能を高め、病気になりにくいからだを作るための具体的な方法として、基本となる①ライフスタイルの指導に加え、②栄養療法（オーソモレキュラー療法）、③ホルモン補充療法、点滴療法（④キレーショ

ン療法、⑤高濃度ビタミンC点滴療法）を行っています。

オーソモレキュラー療法（分子整合栄養医学）とは、適切で十分な量の栄養素を摂取することにより、細胞の機能を高めてからだの機能を向上させ、自然治癒力を高めて病態を改善しようという方法論です。私たちのからだは細胞からできています。細胞は食べ物から作られ、分裂を繰り返しながら常に新しい細胞に生まれ変わっています。したがって、若さや健康を保つには、細胞の機能を十分に発揮させるための十分な栄養が必要で、細胞（分子）レベルで栄養のバランスを考える必要があります。適切で分量の栄養素は、日常の食事だけで得ることは困難な場合が多いので、サプリメントで補給する必要があります。アンチエイジングにおけるサプリメント療法には、分子整合栄養学の理論が不可欠です。

ホルモン補充療法とは、加齢とともに減少していくメラトニン、DHEA、女性ホルモン、男性ホルモンな



点滴療法室



待合室



クリニック概観

どのホルモンを補充することにより、元気で若々しいからだを目指すものです。当院では、からだで作られるホルモンと全く同じ化学構造のバイオアイデンティカルホルモン（米国とオーストラリアから輸入）を用いたナチュラルホルモン補充療法を行っています。なかでも力を入れているのは、テストステロンクリームを用いた男性ホルモン補充療法です。テストステロンの筋肉注射では、注射の前でテストステロン濃度の差が大きくなりすぎるのが欠点ですが、経皮クリームでは、生理的範囲内にテストステロン濃度を保つことができます。テストステロンクリームの投与量は、自覚症状と唾液ホルモン検査により決定しています。唾液ホルモン検査は侵襲がなく、検査のために来院する必要がありませんので、治療効果や日内変動を調べるのに有効です。

キレーション療法とは、からだの中の有害ミネラルを除去することにより、フリーラジカルダメージを減らし、不定愁訴や動脈硬化の改善を目指すものです。動脈硬化に対するEDTAキレーション療法は、鉛中毒の患者にEDTAキレーションを行ったところ、狭心症の症状が改善したという発見から始まりました。その後、症例が積み重ねられ、2002年から2011年にかけて米国国立衛生研究所で行われた大規模臨床試験（TACT試験）により、心筋梗塞の再発予防に対するEDTAキレーションの有効性が証明されました。当院では、スクリーニングの毛髪検査で異常が認められればさらに尿中負荷試験を行い、検出された有害ミネラルの種類と治療目的に応じて、点滴によるCaEDTAキレーション、Na₂EDTAキレーション、または内服によるDMSAキレーションを選択しています。

高濃度ビタミンC点滴療法とは、通常の摂取量よりもはるかに大量のビタミンCを点滴投与することにより、正常な細胞にはダメージを与えず、癌細胞だけを死滅させる治療法です。30年以上の歴史があり、副作用の非常に少ないからだに優しい癌治療法として注目を集めています。ビタミンCには抗酸化作用があるため、最近では、放射線による内部被曝対策として高濃度ビタミンC点滴療法が応用されています。また、ビタミンCはコラーゲンやカルニチンやアドレナリンの合成に必要なビタミンであるため、不足すると、疲れやすくなったり、抵抗力が弱くなったり、肌荒れや内出血の原因にもなります。アンチエイジングの面からは、高濃度ビタミンC点滴療法により、美容、疲労回復、免疫力増強などの効果が期待されています。

私どもは、自由診療によるアンチエイジング医療だけでなく、保健診療においても、どうすれば患者様が元気で長生きできるかを常に考えながら診療にあたっています。慢性疾患で通院中の患者様には、医療費負担額の少ない骨密度、動脈硬化（PWV）、体組成計（筋肉量、脂肪量）の検査はできる限り受けていただき、老化の指標として役立つようにしています。また、保険診療によるホルモン補充療法も行っています。

現在、アンチエイジング医療に関係するスタッフは、日本抗加齢医学会専門医1名、日本抗加齢医学会指導士2名、管理栄養士1名、NR・サプリメントアドバイザー2名、メディカルディレクター1名です。アンチエイジング医療を求めて来院される皆様には、日本抗加齢医学会指導士の資格をもち、接遇に関する専門的トレーニングを受けたメディカルディレクターがご案内にあっております(写真)。私どものモットーは、

患者様一人一人に対する思いやりを大切にされた温かな医療です。スタッフ一同、患者様に対するおもてなしの心や作法を学び、笑顔で優しい応対を心がけています。

クリニックのこれから

アンチエイジング医療という言葉からは、最先端の特殊な検査治療を行う大学病院や自由診療クリニックをイメージしがちですが、アンチエイジング医療は特殊な医療ではなく、ライフスタイルを改善することにより病気を予防し、健康長寿を目指すベーシックなものです。北海道で不整脈の専門医として先端医療を行いながら、日本抗加齢医学会認定医療施設として地域医療に貢献されている満岡孝雄先生は、日本のアンチエイジング医療を広めるためには、特に地方では開業医の参入が必要だと述べておられます（本誌第6巻第6

号）。私も同感です。昨年、日本抗加齢医学会臨床推進検討委員会による臨床データ報告会に参加いたしました。同じような志の先生方と知り合えて大変心強く思いました。

健康にはお金がかかります。有機野菜を食べ、安心できる品質のサプリメントを摂り、エステやジムに通うにはお金がかかります。アンチエイジングドックや点滴療法は高額です。皮肉なことに、アンチエイジング医療が発展すればするほど、健康に投資できる人とできない人との健康格差が広がっていくでしょう。当院は保険診療を主体とした内科クリニックですので、最先端の自由診療を取り入れるだけでなく、地域医療を担うアンチエイジングクリニックとして、保険診療の範囲内でもできるだけ多くの皆様の健康長寿に貢献できすように、アンチエイジングの視点をもって診療を行っていきたいと思います。



中島 孝哉
Koya Nakashima

●プロフィール

中島こうやクリニック院長
九州大学医学部卒業。医学博士。
第一内科、総合診療部において、ウイルス性肝炎、感染症、生活習慣病、消化器疾患の臨床と研究に従事。その後、救急医療、老人医療、病院経営に携わり、2002年に中島こうやクリニックを開院。
総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、感染症専門医、インフェクションコントロールドクター、日本抗加齢医学会専門医、NR・サプリメントアドバイザー。

アウトライン

中島こうやクリニック

*住所 〒811-1213 福岡県筑紫郡那珂川町中原2-127
博多南駅前医療ビル2階

*連絡先／ホームページ

TEL：092-954-1611 FAX：092-954-1654

<http://www.nkoya.jp>

<http://www.antiaging-fukuoka.com>

*診療時間

月・火・木・金 9:00～12:30 / 14:00～19:00

水・土 9:00～13:00

自由診療、アンチエイジングドックは予約制です。水曜午後は休診ですが、自由診療は行っています（予約制）。

*休診日 日曜・祝祭日

*診療内容

保険診療：内科、胃腸科、呼吸器科、循環器科、禁煙診療
自由診療：サプリメント栄養療法、ナチュラルホルモン補充療法、
キレーション療法、高濃度ビタミンC点滴療法
健診・ドック：一般健診、人間ドック、アンチエイジングドック